

科目分類	社会統計学 I			対象学年	1
授業科目	社会統計学 I			学期	春学期
代表教員	張 忠任			選択/必修	選択
科目コード	H901201	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>現代の社会科学および社会工学には、統計学的手法および数学的手法は不可欠な要素となっている。従って、社会科学(社会工学)を学ぶ、あるいは研究するに際し、統計学や数学を使うことを避けることはできない。本講義では、特に博士前期課程(修士課程)1年次で、学部在籍時に基礎的な数理統計学や数学の知識を習得していない学生の、社会科学(社会工学)分野における学習・研究に最低限必要な統計学的知識の習得を目指し、それらを速習する。</p>				
授業の内容	<p>第1回 1最低限度必要な微分積分学 第2回 2最低限度必要な線形代数学 第3回 3重回帰分析の理論と方法 第4回 4ログリニア分析 第5回 5ロジット分析 第6回 6パス解析入門 第7回 7分散分析 第8回 8共分散分析 第9回 9行列の固有値、固有ベクトルおよびスペクトル分解 第10回 10主成分分析 第11回 11因子分析 第12回 12多次元尺度法 第13回 13共分散構造分析 第14回 14マルコフ解析基礎 第15回 15総括</p>				
テキスト	特定の教科書は用いない。必要に応じてプリントを配布する。最初の講義にて参考文献を解説する。				
参考文献	必要に応じて指示する。				
評価方法	中間テスト40%、期末テスト50%、出席10%の評点配分で成績が決定されます。				
添付ファイル					
その他					

科目分類	社会統計学Ⅱ		対象学年	1	
授業科目	社会統計学Ⅱ		学期	秋学期	
代表教員	張 忠任		選択/必修	選択	
科目コード	H901202	授業形態	秋学期	単位数	1.0
授業の概要	社会統計学Ⅰにおいて学んだ多変量解析などの知識を、R言語を用いてコンピュータによる演習と応用を通じて理解を深める。				
授業の内容	<p>受講にはパソコンの持参が必要である。</p> <p>第1回 1 微積分の応用 第2回 2 線形代数学の応用 1 第3回 3 R言語入門 第4回 4 R言語演習 第5回 5 回帰分析の応用 1 第6回 6 回帰分析の応用 2 第7回 7 ログリニア分析とロジット分析の応用 第8回 8 分散分析と共分散分析の応用 第9回 9 パス解析の応用 第10回 10 主成分分析の応用 第11回 11 因子分析の応用 第12回 12 多次元尺度法の応用 第13回 13 共分散構造分析の応用 第14回 14 マルコフ解析の応用 第15回 15 総括</p>				
テキスト	特定の教科書は用いない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考文献	最初の講義にて参考文献を解説する。				
評価方法	レポート2回とするが、レポートに出席を加味して評価する。出席状況の悪いもの（70%以下）は不可になることを覚悟すること。				
添付ファイル					
その他					

科目分類	社会調査手法演習			対象学年	1
授業科目	社会調査手法演習			学期	春学期
代表教員	藤原 眞砂			選択/必修	選択
科目コード	H901203	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>本年度は研究データを収集するときに良く用いるアンケート調査の手法を一から学ぶ。社会調査の手法には既存の官公庁、業界団体が纏めた統計の調査、質的調査法があるが、これについては受講生から個別に疑問に答えるようにしたい。アンケート調査の手法が学べる。論証のためにデータづくりは欠かせない。</p> <p>2017年度は各自の論文のテーマに即して、質問紙を作成し、島根県立大学での社会調査法の受講生を回答者として活用し、データをとり、データ集計し、解析の文章を書かせた。詳しくは過去受講生から聞いてほしい。自分の論文のデータとしても活用出来、手法も着実に身につく、効果がある。</p>				
授業の内容	<p>第1回 テーマ設定-調べ、知りたいことをまず明確にする。</p> <p>第2回 現場を知る-ヒアリング調査を重ねて現地の実情を知る</p> <p>第3回 現場を知る-統計を通して地域の実情を知る。</p> <p>第4回 調査票の設計-現場の状況を理解した上で調査票を組む、仮説の構築、集計の仕方を構想する</p> <p>第5回 調査の設計-どのように調査票を配布、回収するかを考える</p> <p>第6回 回収した調査票のデータをどのように点検するか</p> <p>第7回 回収した調査票のデータをエクセルに入力する。</p> <p>第8回 データをクリーニングする</p> <p>第9回 単数回答処理、複数回答処理の仕方を学ぶ</p> <p>第10回 クロス集計の仕方を学ぶ(1)</p> <p>第11回 クロス集計の仕方を学ぶ(2)</p> <p>第12回 集計データをどのように図化するかを学ぶ</p> <p>第13回 表と図を活用してどのような仮説を検証するを学ぶ</p> <p>第14回 報告書の説明文章の書き方を学ぶ</p> <p>第15回 調査からの政策的含意の抽出の仕方を学ぶ</p> <p>具体的な調査の仕方を、実際の経験のはなしを聞いて、データを活用して学んでください。社会調査は実践からしか学べません。</p>				
テキスト	アンケート調査研究手法、統計調査手法に関しては、適宜、テキストをコピーし、図書も紹介する。				
参考文献	政府統計の総合窓口 e-Stat (http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do) (ほか)。 佐藤信『推計学のすすめ』講談社				
評価方法	出席。課題の提出。小テスト。				
添付ファイル					
その他					

科目分類	GIS研究		対象学年	1
授業科目	GIS研究		学期	春学期
代表教員	松田 善臣		選択/必修	選択
科目コード	H901205	授業形態	講義	単位数 1.0
授業の概要	<p>GISの活用範囲は多岐にわたり、社会科学においても、GISは研究上のインフラとして位置づけられるようになった。そのため、GISを用いて分析を行うための知識や技術を習得することは、地域研究を行うものにとって必須のものとなる。本講義では、さまざまな分野において活用されているGISの事例（特に、人文・社会科学研究での活用事例）を研究し、それらを通してGISの役割と重要性について理解する。さらに、受講生各自の研究課題におけるGISの活用法について検討する。</p>			
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 第2回 GISの概念と原理1 第3回 GISの概念と原理2 第4回 GISの技術1 第5回 GISの技術2 第6回 ビジネスにおける活用事例1 第7回 ビジネスにおける活用事例2 第8回 行政における活用事例1 第9回 行政における活用事例2 第10回～第14回 GISの活用事例 第15回 最終発表 受講生の興味・関心に応じて、扱う事例を決定する。</p>			
テキスト	<p>テキストは指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>			
参考文献	<p>[1] 高橋重雄ほか（2005）『事例で学ぶGISと地域分析』古今書院。 [2] 高坂宏行・関根智子（2005）『GISを利用した社会・経済の空間分析』古今書院。 [3] 野上道男ほか（2001）『地理情報学入門』東京大学出版会。 [4] 村山裕司・柴崎亮介（2008）『ビジネス・行政のためのGIS』朝倉書店。 [5] Keith C. Clarke (2010) Getting Started with Geographic Information Systems (5th Edition), Prentice Hall; 5版。 [6] Michael J. De Smith et al. (2006) Geospatial Analysis: A Comprehensive Guide to Principles, Techniques and Software Tools, Troubador Pub.</p>			
評価方法	<p>レポート、プレゼンテーション、出席状況などを総合的に勘案して成績評価を行う。</p>			
添付ファイル				
その他				

科目分類	GIS特別演習			対象学年	1
授業科目	GIS特別演習			学期	秋学期
代表教員	松田 善臣			選択/必修	選択
科目コード	H901206	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>本演習では、GISソフトを用いて地域分析を行うためのスキルを習得することを目的とする。地域分析においてGISが実際に活用されている事例を用いて、データの取得から加工、分析、分析結果の効果的な表現方法といった一連の操作方法を、繰り返し演習を行うことで身につける。また、これらの事例で用いられる分析手法の理論的背景についても理解する。これらの演習を通して、各自の研究課題の中でGISをどのように活用できるかを検討する。</p>				
授業の内容	<p>第1回 GISの基礎 第2回 ArcGISの基本操作 第3回 地図の表示・レイアウト1 第4回 地図の表示・レイアウト2 第5回 データ作成・編集1 第6回 データ作成・編集2 第7回 地図データの取得 第8回 ベクタ解析1 第9回 ベクタ解析2 第10回 ベクタ解析3 第11回～第14回 総合演習 第15回 課題発表</p>				
テキスト	テキストは指定しない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考文献	<p>[1] 佐土原聡ほか (2005) 『図解! ArcGIS 身近な事例で学ぼう』 古今書院。 [2] 川崎昭如・吉田聡 (2006) 『図解! ArcGIS Part2 GIS実践に向けてのステップアップ』 古今書院。 [3] 高橋重雄ほか (2005) 『事例で学ぶGISと地域分析』 古今書院。 [4] Tim Ormsby et al. (2004) Getting to Know Arcgis Desktop, ESRI Press. [5] Andy Mitchell (2005) The ESRI Guide To GIS Analysis: Spatial Measurements & Statistics, ESRI Press. [6] Maribeth Price (2007) Mastering ArcGIS with Video Clips CD-ROM, McGraw-Hill Science/Engineering/Math; 3版。</p>				
評価方法	レポート、プレゼンテーション、出席状況などを総合的に勘案して成績評価を行う。				
添付ファイル					
その他	「GIS研究」を修得済みであることが望ましい。				